

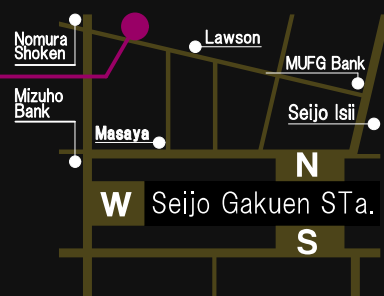
沢田穰治 contrabass  
 馬場孝喜 guitar  
 鈴木大介 guitar

2020 02月02日(日)

開場 18:30 ※時間がイレギュラーです。  
 開演 19:00~  
 (2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)  
 MC 3700円+2drinks order

CAFE **BEULMANS**  
 03-3484-0047  
 info.cafebeulmans@gmail.com  
 東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、  
 必ず当日ご連絡がとれる電話番号を  
 ご記載ください。



馬場孝喜

京都府出身。中学時代からギターを始める。2004年、ニューヨーク〜ブラジルに渡航し、ギタリストBilinho Teixeiraに師事。ポサノバ、サンバ、ショーロなどのブラジル音楽に傾倒する。2005年ギブソン・ジャズギターコンテスト最優秀ギタリスト賞受賞。2006年11月25日に京都コンサートホールで行なわれた「佐山雅弘 PLAYS ゴールドベルク変奏曲」第二部の佐山雅弘トリオに参加。2008年より拠点を関西から東京に移す。佐山雅弘、井上智、大坂昌彦、沢田穰治など多数のミュージシャンと共演。現在、自身のグループや様々なセッション、レコーディング、講師など幅広く活動している。2013年11月20日、初となるリーダーアルバム『GRAY ZONE』をSong & Co.レーベルよりリリース。

沢田穰治

ChoroClubのベーンストでありながら、様々な楽器を愉しむ。その活動は幅広く、ジャンルにとらわれない活動が続けながら様々なアーティストのプロデュースや映画、アニメ、ドラマなどの音楽制作なども多い。近年の作品にはアントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「Canta Jobim」、2011年の震災を受け止めて音楽として昇華した「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、「武満徹ソングブック」等、最近ではジャズギタリスト馬場孝喜「Gray Zone」、日本初録音となるジョージ・クラム作曲『マクロコスモス II』や畠山美由紀「歌で逢いましょう」などをプロデュース。アレンジャーとして今までのおたか静流、川本真琴、フィッシュマンズ、忌野清志郎、太田裕美、パッファロードーター、上間綾乃、松下奈緒などほか、多数手がける。活動においてはアルゼンチンやブラジルの音楽家からの信頼もあつく、レコーディングやセッションを重ねている。直近でのリリースでは高木正勝、渡辺亮、馬場孝喜など京都ゆかりの音楽家と共に制作した「Closeness Ensemble of Kyoto / WaBaSaTa」がsong x jazzからリリース。

鈴木大介

作曲家の武満徹から「今までに聴いたことがないようなギタリスト」と評されて以後、新しい世代の音楽家として常に注目され続けている。マリア・カナルス国際コンクール第3位、アレッサンドリア市国際ギター・コンクール優勝など数々のコンクールで受賞。現代音楽の初演や、アンサンブルとコンチェルトの膨大なレパートリーでの、明晰な解釈力と洗練された技術は、多方面からの評価を確立し、難度の高いプロジェクトにおけるファースト・コール・ギタリストの位置を維持している。これまでに、池辺晋一郎、西村朗、猿谷紀郎、和田薫、伊左治直、各氏らほかの作曲家からギター協奏曲を含む多くの作品の初演を依頼されている。2013年にはサントリー・サマー・フェスティバルにおいて、野平一郎作曲「エレクトリック・ギターとオーケストラのための炎の弦」を演奏、またソリストとして参加した東京シンフォニエッタによるCD「天女散花」はレコードアカデミー賞現代音楽部門を受賞した。